

2017年2月号

横須賀小川町教会新聞No.135
2017年2月1日発行

小川町の鐘

発行者 日本キリスト教団
横須賀小川町教会
牧師 寺田信一
住所 横須賀市小川町7
電話 046-822-2463
http://ogawachurch.sakura.ne.jp

第30回

天災は忘れた頃にやってくる

牧師 寺田 信 一

私が生まれたのは奈良県ですが、物心ついた頃には兵庫県尼崎市に住んでいました。十九の春まで武庫川界隈を“庭”にして育ち、阪急電車で揺られて教会に通っていた者です。けれども1995年1月17日早朝、あのふるさとの風景は一変しました。阪神・淡路大震災です。実家は全壊し、両親と弟はその後、4回も転居しました。その頃であったと思います、「天災は忘れた頃にやってくる」という言葉が理学博士寺田寅彦氏の言葉である、と知ったのは、

寺田寅彦が残した文書の中には（少なくとも筆者が調べた限りでは）上記のような言葉はどこにも見当たりません。しかし、寅彦の僅かな文献を読んだだけでも、誰もが恐らく「この言葉ほど、寅彦博士のメッセージ全体を的確に表現している言葉は他に無い」と思われる筈です。

寅彦博士は自然災害や都市災害に関する論文、随想を数多く残していますが、その端々で災害との向き合い方について貴重なメッセージを残してくれています。例えば、日本評論社が1926年に創刊した総合雑誌『経済往来』に1934年、「天災と国防」という文章を寄稿しています。けれどもこれを執筆するまでに、寅彦博士は1923年に関東大震災、25年に北但馬地震、27年に北丹後地震、30年に北伊豆地震、31年に西埼玉地震、33年に昭和三陸地震津波というふうに、地震災害の続発を目の当たりにしていたようです。しかもその時期は27年に世界恐慌、31年に満州事変、32年に五・一五事件、33年に国際連盟脱退、36年に二・二六事件といった出来事が続き、これまた社会が暗くなっていった要因が重なってありました。そういう背景を知ると、「天災と国防」というタイトルには、寅彦の健やかな復興心、興国心とも言うべき思いが込められていたと考えられると思います。

以下はその『天災と国防』の一節です。「いつも忘れられがちな重大な要項がある。それは、文明が進めば進むほど天然の暴威による災害がその劇烈の度を増すという事実である。…文明が進むに従って人間は次第に自然を征服しようとする野心を生じた。そうして、重力に逆らい、風圧水力に抗するよういろいろな造営物を作った。そうしてあつぱれ自然の暴威を封じ込めたつもりになっていると、どうかした拍子に檻を破った猛獣の大群のように、自然があつぱれ出して高樓を倒壊せしめ堤防を崩壊させて人命を危うくし財産を滅ぼす。その災禍を起こさせたもの起こりは

天然に反抗する人間の細工であると言っても不当ではない



はずである。…人間の団体、なかんづくいわゆる国家あるいは国民と称するものの有機的結合が進化し、その内部機構の分化が著しく進展して来たために、その有機系のある一部の損害が系全体に対してはなはだしく有害な影響を及ぼす可能性が多くなり、時には一小部分の傷害が全系統に致命的となりうる恐れがあるようになったということである」（寺田寅彦著『天災と国防』p.12-13、講談社学術文庫、2011年）。

これは本当に83年前の文章なのでしょう。私は、現代の状況を見事に言い当てているように思えてなりません。

例えば、小さな戸建て住宅が分散していた時代とは違い、現代は地域格差も手伝った結果、狭小地域に膨大な人が住むようになりました。アパートはマンションになり、そのマンションもいつの間にか「タワー」と冠するものが居並ぶようになりました。何となれば、小さな地震でも直下型なら甚大な被害を招くのは当然のことでしょう。或いはまた、小さな波であれば堤防を高くすれば防げるけれども、破堤するほどの波には耐えられず、寧ろ逆に高い堤防であったほうがより甚大な被害を受ける、ということでもあります。非常用発電機が作動しなかっただけで全世界が震撼する事態となった（なっている？）福島第一原発を知る私どもは、あの体験を経験とせねばならないでしょう。

現在、首都東京では至る所で工事が行なわれています。オリンピックの準備がメインですが、それを機に、他の様々な施設、道路も一新されているようです。それらすべてに苦言を呈するつもりはありません。しかし、低コストとかスマートということばかりが追求されて、本当に大丈夫でしょうか。お金が係らないに越したことはありませんが、何度も震災を体験した国民らしく、影響力が大きい設備には、冗長性やゆとりを備えさせるべきでしょう。耐震性に限らず、防災効果を高めておく、それをコンセプトにすべきである（あつぱれ？）ように思います。なぜなら、天災は忘れた頃にやってくるからです。



スプリングコンサート

協力 横須賀学院

3月12日(日) 14:30 開演

開場 14:00

出演 横須賀学院中学高等学校 吹奏楽部

「中高生合わせて現在60名で、温かな音楽を目指して楽しく活動中。昨年12月に初出場した第2回全日本ブラスシンフォニーコンクール高等学校の部で優勝を果たす。」

演奏曲目 大きな古時計変奏曲、グレン・ミラー・メドレー、他

会場 横須賀小川町教会 礼拝室 入場無料

特別伝道礼拝
「わたしのサマリヤ人」
寺田 信一 牧師
三月二日(日) 午前10時30分

・主日礼拝
日曜日 午前10時30分
・教会学校
毎週日曜日 午前九時からこどものための礼拝があります。



教会にはエレベーターが設置されています。また、多機能トイレも整備されています。視覚障害の方には、点字聖書が用意されています。